

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立三間中学校

1 自己評価書

教育目標 夢を力にたくましく生きる生徒の育成						
基本方針 本校の歴史と伝統を継承し、地域に愛され地域に貢献する活力ある学校づくりを推進						
本年度重点目標 生きる力の育成と充実を基盤に、知・徳・体、調和のとれた生徒の育成を図る。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B	B
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師・生徒ともにICT機器の使用に対する抵抗がほぼなく、CBTへの対応力や学習への活用力が向上してきている。 ● 予習・復習・振り返り等を含めた家庭学習の充実には至っておらず、保護者の目も厳しいことがうかがえる。 ● 読書に対する意欲は十分に高まっておらず、朝読書の時間のみの生徒も多い。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習習慣及び読書習慣の確立のため、その意義について生徒自身が真剣に考える場が必要である。生徒会を中心に関係委員会の取組強化を図っていく。 ・ 学担以外の教員による家庭学習へのサポート体制を強化する。 					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
③		基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B A	B
④		自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	A B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ・不登校等の問題に対しては、未然防止、早期発見・早期対応等への取組が組織として行われている。 ● 基本的な生活習慣や規範意識等の醸成については、教師、生徒、保護者での捉え方に差がある。共通理解及び意識統一が不十分な面もあると考えられる。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、いじめ・不登校問題は、学校の最重要課題と捉え、スピード感と誠実さ、そして粘り強い組織的な対応をしていく。 ・ 校則(三間中生の約束事)等の見直しも含め、現状把握と改善の具体策を生徒の視点も大切にしながら検討していく。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	A
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
	<p>(成果と課題)</p> <p>○ 職員室の風通しがよく、意見が言いやすい環境である。また、スクールサポートスタッフ等の学校教育活動支援員の存在がかなり有り難く、教職員の負担軽減につながっている。</p> <p>● ワークエンゲージメントを重視しつつも思いきった時間削減及び業務の平準化に取り組んでいく必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポートスタッフ、支援員の方々の効果的な活用を推進していく。 ・締切の確認、複数の目での確認等、ミスを減らすことで仕事の質の向上を図り、業務改善につなげていく。 ・行事内容の精選、時間短縮、効率的な運営等について継続して検討をしていく。 				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々ที่มา校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 学校運営協議会において、ふるさと学習に関する熟議や本校生徒の健康課題に関する協議等を行った。教職員や生徒が地域の様々な情報を得るよい機会となった。</p> <p>● 交流によって得た情報を基に、実施可能なものについては具体的に取り組んでみる「実行力」が求められる。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会での話し合いだけでなく、普段の教育活動(授業や行事等)を見ていただく機会を増やし、地域の視点からの助言や提案を日常的に受けられたり、逆に学校から気軽に相談したりできる体制を整える。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満